

1 学校評価アンケート調査対象及び実施期間

児童(3～6年生)、保護者、教職員(平成30年12月実施) ※すべて無記名

2 学校評価アンケート調査結果及び分析

(回答者数) 児童296名 保護者438名 職員22名

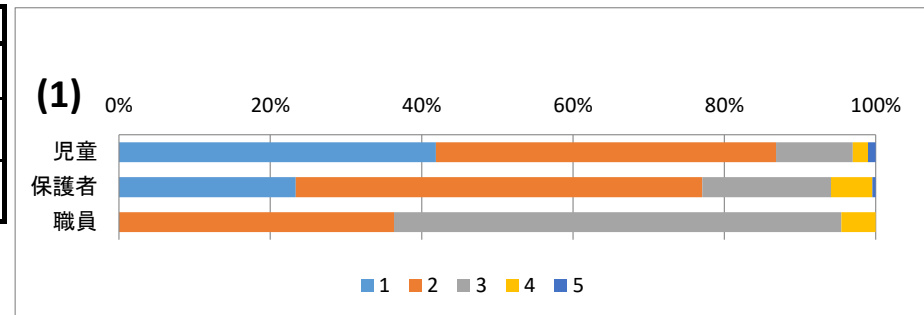
(回答方法及び結果の表示方法) 各設問に対し以下のような項目で回答してもらい、その数を集計し、全体数に対する(%)で表示した。

1よくあてはまる 2ややあてはまる 3あまりあてはまらない 4あてはまらない 5よく分からない

※判定は、1+2の合計が90%以上AA, 80%以上90%未満A, 70%以上80%未満B, 60%以上70%未満C, 60%未満D

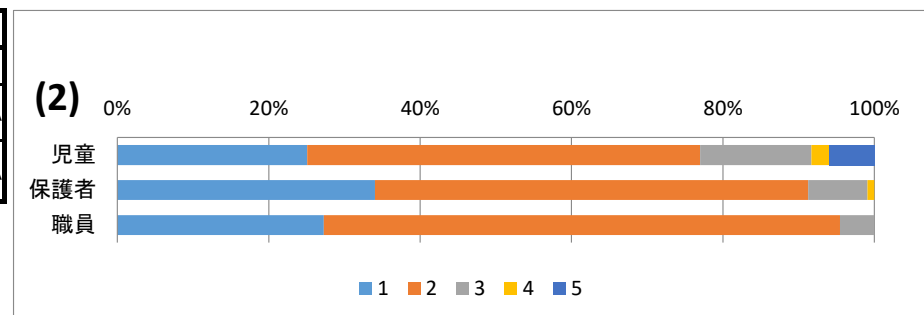
(1)	アンケート設問	1	2	3	4	5	1+2	判定
児童	友達や保護者、地域の人に対しあいさつをしている。	42	45	10	2	1	87	A
保護者	子どもは、保護者や地域の人に対しあいさつができるようになってきている。	24	54	17	5	0	78	B
職員	子どもたちは、友達や保護者、地域の人に対しあいさつができる。	0	36	59	5	0	36	D

児童と職員で大きな差が見られる。職員の数字は、地域の方や交通当番の保護者から寄せられる「児童のあいさつが十分でない」というところからきているとみられる。校内ではすばらしいあいさつができるので、地域の人に対してもあいさつができるよう引き続き指導していきたい。



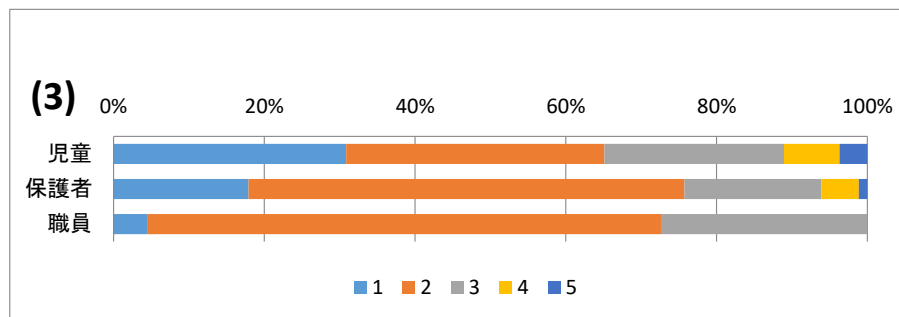
(2)	アンケート設問	1	2	3	4	5	1+2	判定
児童	人に対して優しい声かけや思いやりをもっている。	25	52	15	2	6	77	B
保護者	子どもは、人に対し思いやりややさしい気持ちをもっている。	34	57	8	1	0	91	AA
職員	子どもたちは、人に対する思いやりや、やさしい気持ちをもっている。	27	68	5	0	0	95	AA

保護者・職員は高い結果を得た。実際、本校児童は優しい言動が多く見られる。そういったことを逐次児童に紹介し、自尊感情を高めたい。



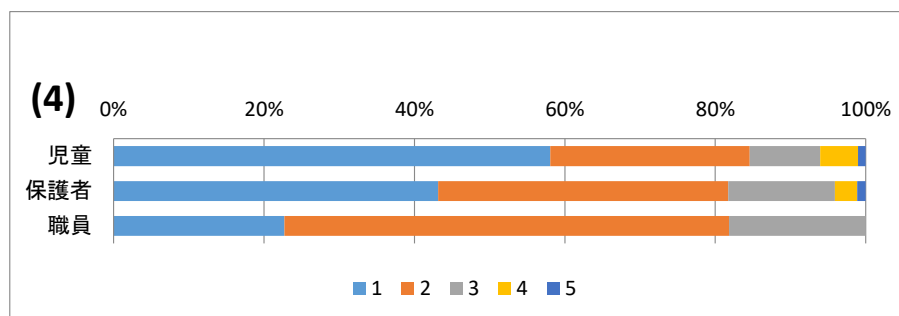
(3)	アンケート設問	1	2	3	4	5	1+2	判定
児童	発言で、自分の考えや思いを言うことができる。	31	34	24	7	4	65	C
保護者	子どもは、自分の考えや思いを伝えられるようになってきている。	18	58	18	5	1	76	B
職員	子どもたちは、自分の考えや思い、願いを伝えることができる。	5	68	27	0	0	73	B

三者ともB以下の判定であった。昨年度と比較すると児童は同じで、保護者・職員はやや向上した。児童自身ができることを実感できるよう富東っ子タイムや授業を通じて、意見や考えを述べる力を付けていきたい。



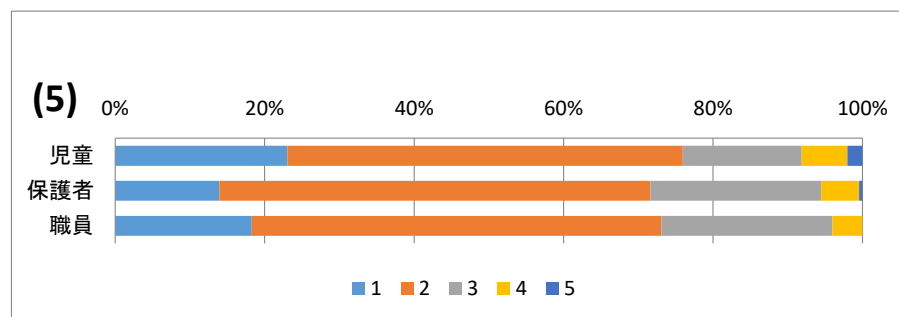
(4)	アンケート設問	1	2	3	4	5	1+2	判定
児童	体育や体づくり運動、遊びなどを通して、体をじょうぶにする活動に楽しく取り組める。	58	27	9	5	1	85	A
保護者	子どもは、体育や遊び等を通して、体を鍛える活動に楽しんで取り組めている。	43	39	14	3	1	82	A
職員	子どもたちは、体育や行事、体づくり運動、遊び等を通して体を鍛える活動に楽しく取り組めている。	23	59	18	0	0	82	A

さまざまな機会を通して、楽しみながら丈夫で健康な体をつくれるように引き続き指導していきたい。



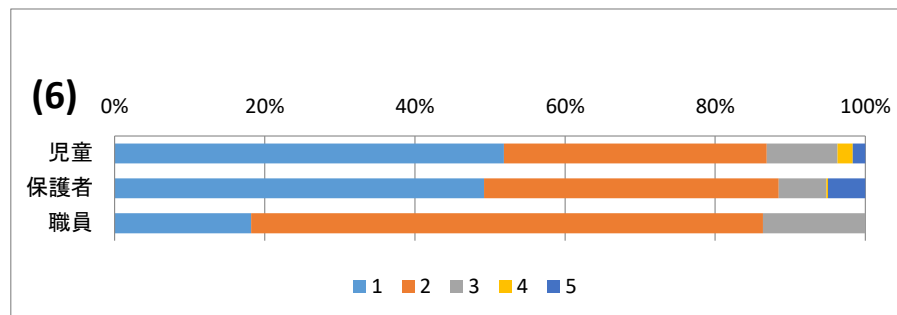
(5)	アンケート設問	1	2	3	4	5	1+2	判定
児童	正しい言葉遣いや時間を守ることができる。	23	53	16	6	2	76	B
保護者	子どもは、正しい言葉遣いや時間を守るなど基本的な社会性を身に付けてきている。	14	58	23	5	0	72	B
職員	子どもたちは、正しい言葉遣い、時間を守るなどの基本的な社会性を身に付けてきている。	18	55	23	4	0	73	B

三者ともほぼ同じ結果を得た。集団生活を通して、適切な社会性が身に付けられるよう、日々の指導を大切に、その場その場で気になることを指導していくことが大切であると考える。



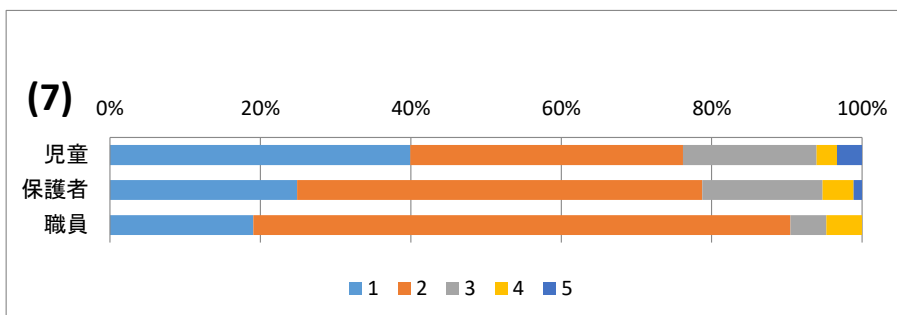
(6)	アンケート設問	1	2	3	4	5	1+2	判定
児童	係・委員活動などの自分の仕事や清掃に前向きに取り組んでいる。	52	35	9	2	2	87	A
保護者	子どもの係・委員活動等の自分の仕事に進んで取り組んでいる。	50	39	6	0	5	89	A
職員	子どもたちに係・委員活動、清掃、自分の仕事に対する取り組み方が前向きになるよう指導している。	18	68	14	0	0	86	A

三者ともAという結果であった。一人一人が責任を持って取り組んでいるといえる。がんばったことに対して認め、さらに次の行動につながるような指導を今後も継続していく。



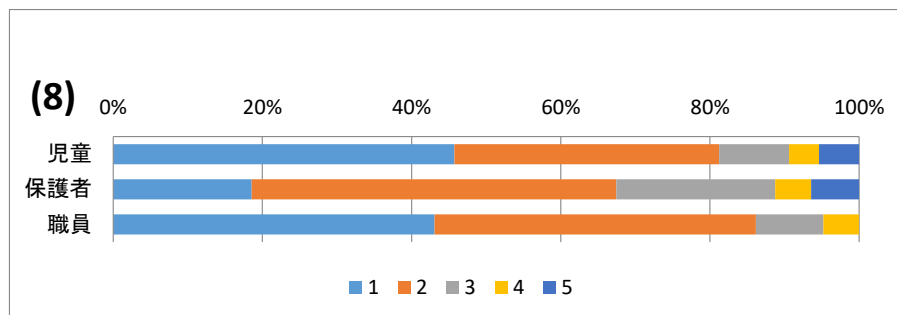
(7)	アンケート設問	1	2	3	4	5	1+2	判定
児童	授業に進んで参加している(取り組んでいる)。	40	36	18	3	3	76	B
保護者	子どもは、基礎的・基本的な学力を身に付けてきている。	25	54	16	4	1	79	B
職員	子どもたちに基礎的・基本的な学力が身に付くような授業をしている。	19	71	5	5	0	90	AA

職員はAAだが、児童・保護者はBという結果であった。工夫を取り入れ、児童が意欲的に学ぶことができ、基礎的・基本的な力が身に付くよう、さらに一人一人をしっかり見て支援していく必要があると考える。



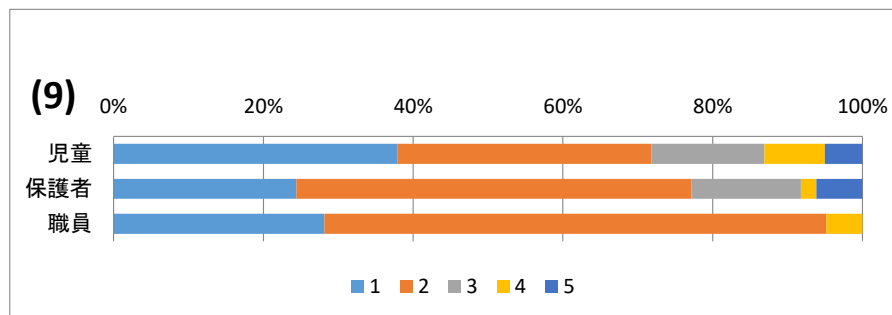
(8)	アンケート設問	1	2	3	4	5	1+2	判定
児童	授業は分かりやすいと思う。	46	36	9	4	5	82	A
保護者	子どもは、授業が分かりやすいと言っている。	19	49	21	5	6	68	C
職員	子どもたちにとって分かりやすい授業をめざし、工夫を取り入れている。	43	43	9	5	0	86	A

児童・職員はAに対して、保護者はCという結果であった。結果を真摯に受け止め、「分かりやすい」授業をめざし、今後も授業研究会などを積み重ね、指導力向上を図ってきたい。



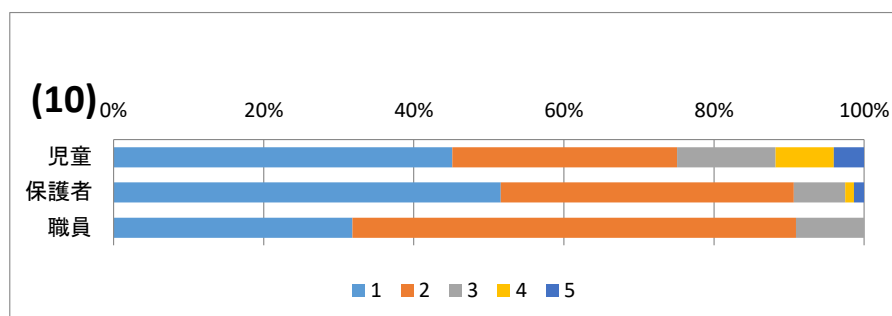
(9)	アンケート設問	1	2	3	4	5	1+2	判定
児童	授業の話し合いや教え合いをする場面は楽しい。	38	34	15	8	5	72	B
保護者	学校は、子どもの意欲を高めたり子ども同士が学び合えたりする授業づくりを心がけている。	24	53	15	2	6	77	B
職員	子どもたちの意欲を高めるために、かかわり合いをしたり、学び合いを取り入れたりしている。	28	67	0	5	0	95	AA

学習指導要領で「主体的・対話的で深い学び」が求められており、その実現のためにさまざまな形態の学習を取り入れるようにしている。より有効にするためにどの場面でどの指導法が必要か考え、改善していく。



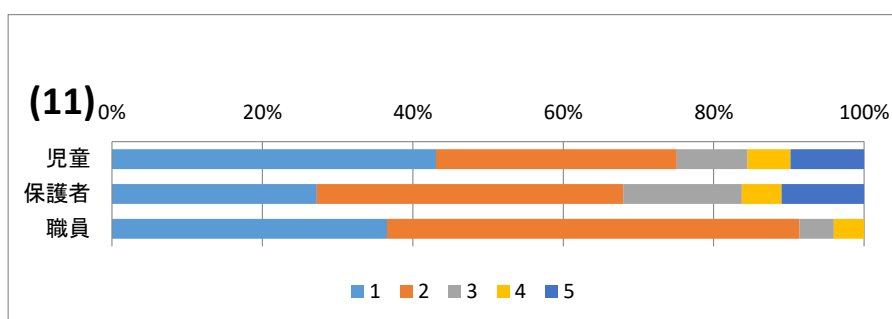
(10)	アンケート設問	1	2	3	4	5	1+2	判定
児童	学校へ来るのが楽しい。	45	30	13	8	4	75	B
保護者	子どもは、楽しく学校に通っている。	52	39	7	1	1	91	AA
職員	子どもは、富士松東小へ楽しく通ってきていると思う。	32	59	9	0	0	91	AA

児童がBという結果であった。学習・生活・友人関係など日頃からさまざまな視点から困り感や悩み事等がないかよく見ていく必要がある。より一層児童に寄り添った指導を職員に呼びかけていきたい。



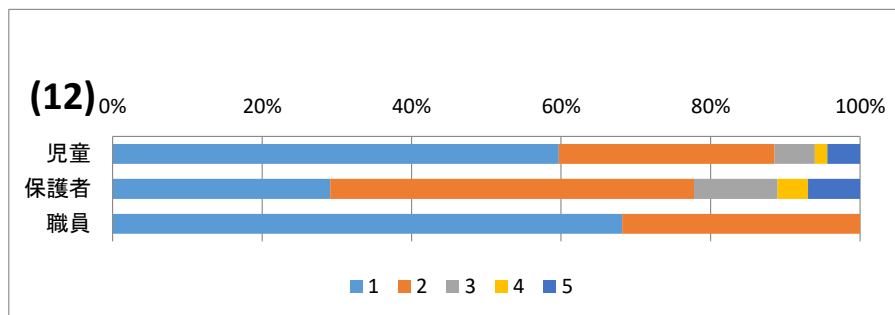
(11)	アンケート設問	1	2	3	4	5	1+2	判定
児童	先生は、困った時や悩みがある時に話を聞いてくれる。	43	32	9	6	10	75	B
保護者	子どもは、困った時や悩みがある時に先生が話を聞いてくれると言っている。	27	41	16	5	11	68	C
職員	子どもたちが困った時や悩みがあるような時、共感的に話を聞いてあげている。	36	55	5	4	0	91	AA

児童からの相談を待つことなく、教師から積極的に声をかけられるようでありたい。また、児童が話しやすい雰囲気醸成にも気を付けていく。そういう場面を経験したり見聞きたりしないのか、「分からない」と回答した人が児童・保護者ともに10%程度いた。



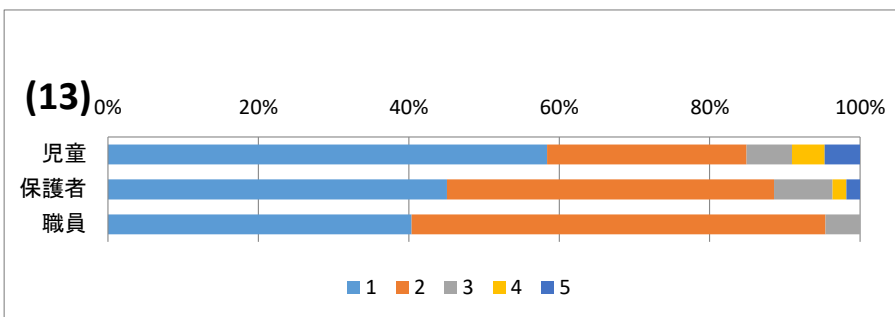
(12)	アンケート設問	1	2	3	4	5	1+2	判定
児童	仲間はずれやいじめをしないよう心がけている。	60	29	5	2	4	89	A
保護者	学校・先生は、いじめを許さず、一人一人を大切に する教育を進めている。	29	49	11	4	7	78	B
職員	仲間はずれやいじめを許さず、一人一人を大切に しようと心がけている。	68	32	0	0	0	100	AA

保護者がBという結果であった。いじめは許さないという信念のもと、呼びかけをしていきたい。もし、起きてしまった場合は、迅速で適切な対応、そして保護者への説明を通して、信頼を得られるようにしていきたい。



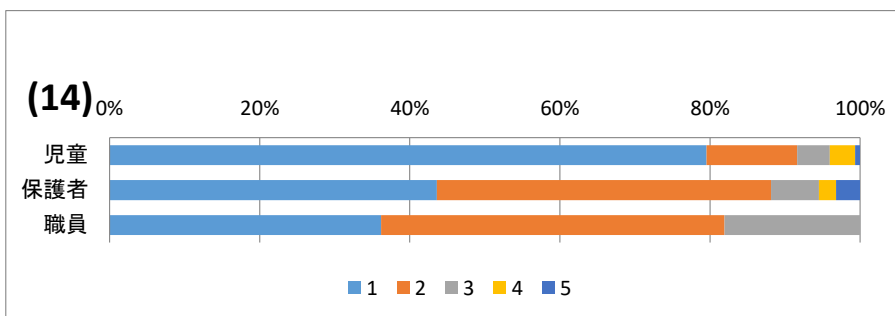
(13)	アンケート設問	1	2	3	4	5	1+2	判定
児童	先生は、自分やクラスのみんなががんばったことを ほめてくれる。	58	27	6	4	5	85	A
保護者	先生は、子どものよさや努力したことなどを認めよう としている。	45	43	8	2	2	89	A
職員	子どもたちのよさや努力したことなどを進んで認め ようとしている。	40	55	5	0	0	95	AA

児童・保護者とも昨年より数値が上がった。「ほめて伸ばす」ことを大切に一層児童のよいところを見つける努力をし、ほめていきたい。



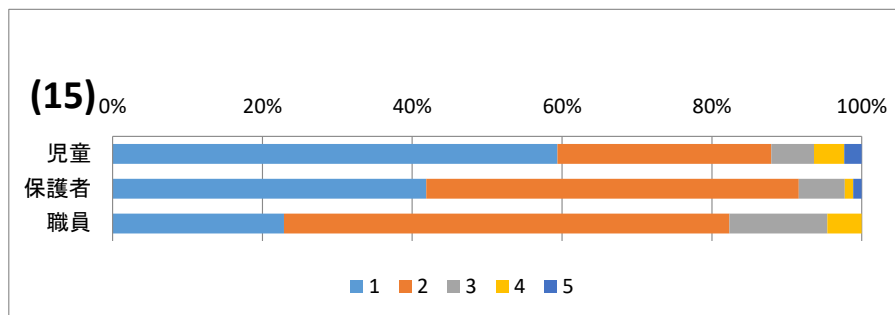
(14)	アンケート設問	1	2	3	4	5	1+2	判定
児童	学校に気さくに話ができる友達がいる。	80	12	4	3	1	92	AA
保護者	学校・先生は、保護者に対して誠意をもって対応を したり相談に応じたりしている。	44	45	6	2	3	88	A
職員	保護者に対して誠意をもった対応をしたり相談に応 じたりしている。	36	46	18	0	0	82	A

多くの児童は話せる友人が学校にいるという結果を得た。保護者の回答は昨年より約5%アップした一方、職員は約10%ダウンした。保護者の回答を職員に伝え、一層誠意をもって対応するように心がけさせたい。



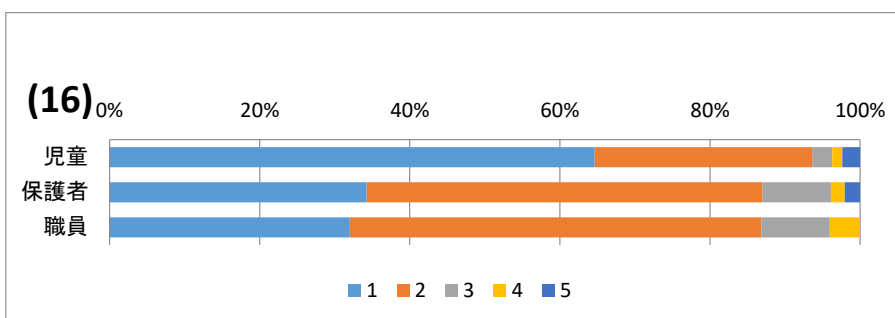
(15)	アンケート設問	1	2	3	4	5	1+2	判定
児童	学校であったことを家で話したり、連絡プリントなどを家の人に渡したりしている。	59	29	6	4	2	88	A
保護者	学校は、授業や学校行事を参観する機会を設けたり、たより・ホームページを通して必要な情報発信に努めたりしている。	42	50	6	1	1	92	AA
職員	保護者に対して学年だより、学級通信、連絡帳等を通して必要な情報を伝えたり連絡したりしている。	23	59	13	5	0	82	A

(14)同様、職員の結果が昨年より約10%ほどダウンしている。その反省をもとにしっかりと必要な情報を進んで発信できるよう心がけていきたい。



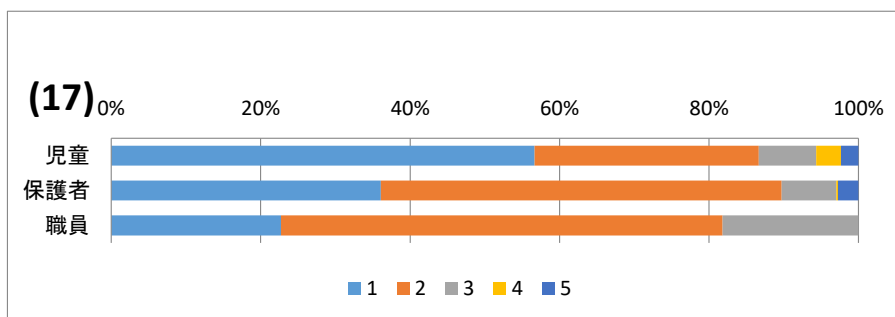
(16)	アンケート設問	1	2	3	4	5	1+2	判定
児童	交通安全に気を付けて登下校できている。	65	29	3	1	2	94	AA
保護者	学校は、交通安全や防犯指導、安心・安全な環境づくりなどを進めている。	34	53	9	2	2	87	A
職員	不審者対策、登下校の交通安全指導や、児童が安心・安全な教室環境づくり(施設整備)などを行っている。	32	55	9	4	0	87	A

今年度は、帰宅後の交通事故が3件あった。いずれも命に別状なく、不幸中の幸いであった。交通指導・学校環境含め、児童の安全・安心第一を考え、指導していきたい。



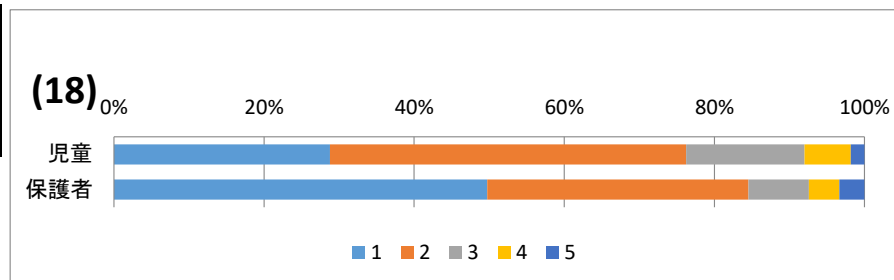
(17)	アンケート設問	1	2	3	4	5	1+2	判定
児童	病気やケガをしないように気を付けたり、好き嫌がなく給食を食べたりしようとしている。	57	30	8	3	2	87	A
保護者	学校は、子どもが健康な生活を送ることができるように指導している。	36	54	7	0	3	90	A
職員	子どもたちが健康な生活を送ることができるように給食指導、保健指導に努めている。	23	59	18	0	0	82	A

三者ともAという結果を得た。しかし、予期せぬけがを起こしてしまう児童が多いことも確かである。職員の数値が他に比べて低いのはそのせいであろう。「これをしたらこうなるだろう」というような予測に基づいた行動をするように児童に呼びかけ、未然防止を図ってきたい。



(18)	アンケート設問	1	2	3	4	5	1+2	判定
児童	家庭学習(宿題)にしっかり取り組んでいる。	29	47	16	6	2	76	B
保護者	子どもは家庭学習(宿題)にしっかり取り組んでいる。	50	35	8	4	3	84	A

全国学力・学習状況調査では、家庭学習が全国・県平均と比べて低いという結果があり、今年度設問に加えた。児童はBという結果であった。学年で適切な宿題・学習量を相談して決め、それができるよう指導を続けていく。



3 学校評議員の意見交換(第3回学校評議員会より:授業参観、アンケート説明後)

- ・校内参観をしたとき、子どもの様子を見て、授業に活気があると感じた。先生と子どもが対話しながら授業を進めている様子を見て、授業の仕方も変わったと感じた。先生たちもがんばっていると思った。
- ・不審者に対して心配している。不審者が出たときの対応を子どもたちにしっかり指導してほしい。
- ・あいさつをしたときに、下を向きながら歩いて行く子どもが気になった。
- ・あいさつは、見返りを求めるものでないと思う。できていないのを子どものせいにするのではなく、返ってこなくても大人があいさつし続けることが大切である。
- ・子どもの長期休みの宿題量が多いと聞く。子どもの力を伸ばすための適切な量を望みたい。
- ・親御さん同士の関わり方について、やや心配な話を聞いた。それが子どもに影響しないか心配である。